

平成 30 年度 長岡市立図書館の活動評価（案）

令和元年 7 月 29 日

長岡市立中央図書館

平成 30 年度 長岡市立図書館の活動評価（案）について

1 評価の趣旨

図書館法第 7 条第 3 項の規定に基づき、平成 30 年度の長岡市立図書館の活動について、次のとおり評価を実施した。評価は、指標に基づく内部評価と長岡市図書館協議会委員による外部評価から構成される。

2 評価の項目

（１）基本評価（前年度比較による数値評価）

前年度（平成 29 年度）の数値と比較し、評価を行う。

① 利用状況

中央図書館入館者数、個人貸出冊数、予約件数、有効登録者数、登録率、実登録者数、登録率、インターネットアクセス件数、中央図書館開館日数、郷土資料受入点数、窓口対応満足度、大活字本の所蔵冊数、新規購入冊数・割合（特別資料の転載等許可件数は参考数値とする。）

② 管理運営費

図書館費及びその内訳は参考数値とし、評価を行わない。

（２）重点事項評価

長岡市立図書館の運営方針における重点事項について、重点事業の実績をもとに評価を行う。ただし、項番 3 と 5 は内部評価のみとする。

平成 30 年度重点事項

- 1 当市をはじめとする郷土に関する各種資料等の収集・保存・活用に努める。
- 2 課題解決に向けた資料及びサービスの充実を図るとともに、利便性の向上に取り組む。
- 3 市民の要望・意見を広く取り上げ、図書館運営に反映させる。
- 4 長岡市立図書館開館 100 周年を機に、より積極的な広報や各種機関などとの連携を進め、本と人をつなぐ、様々な事業を実施する。
- 5 勉強会や職場内研修をはじめ様々な研修機会を確保し、図書館職員の資質の向上を図る。
- 6 子どもや若者が本に親しむ環境づくりに取り組む。

3 評価の方法

(1) 図書館の内部評価

- ・項目ごとに前年度数値と比較するなどして算定し、評価する。
- ・「基本評価」、「重点事項評価」とともに、AAからCまでの4段階の評価とする。

区 分	評価区分・内容
基本評価	AA … 前年度を大きく上回った。(＋10%超) A … 前年度維持・伸張した。(0～＋10%) B … 前年度を下回った。(0未満～－10%) C … 前年度を大きく下回った。(－10%超)
重点事項評価	AA … 優れた取組が多く、十分成果が上がっている。 A … 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている B … 一定の成果は上がっているが、工夫等が必要である。 C … 成果が上がっておらず、改善や見直しが必要である。

(2) 図書館協議会による評価

○ 協議会の開催

- ・日 時 平成31年2月18日(月曜日)
- ・会 場 長岡市立中央図書館講座室1

○ 協議会の意見のとりまとめ

- ・上記協議会における各委員の意見を委員長がとりまとめ、図書館協議会による評価とする。

4 評価の概要

基本評価は、評価対象の13項目中9項目がAA、A評価となり、平成29年度の2項目を上回る結果となった。B評価は入館者数等がA評価となったことから、平成29年度の10項目から3項目へと減少した。また、C評価が1項目であった。

重点事項評価は、事業別評価の20項目では、AA評価が1項目、A評価が19項目となった。また、総括評価では、すべてがA評価以上であったことから、全体としては、優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている。

5 図書館協議会意見

(1)「基本評価」について

- ・有効登録者数、登録率が B 評価となったが、長岡市の人口が減っている現状では、前年度を下回ることはやむを得ないともいえる。窓口対応満足度も落ちてはいるがほぼ横並びと言っていい状況である。インターネットアクセス件数が伸び悩んでいることについては、図書館の注目度が高くないとも考えられる。このような理由で入館者数などがなかなか上がらないのであれば、予算が減らされる状況も考えられる。インターネットアクセス件数の減少については、今後注意する必要がある。

(2)「重点事項評価」について

1 当市をはじめとする郷土に関する各種資料等の収集・保存・活用に努める。

- ・平成 30 年度については、長岡開府 400 年及び図書館開館 100 周年の事業を優先的に行う必要があったが、これらの事業についても古文書などの歴史資料の活用を含めてよいと考えられる。そう捉えると、古文書等の歴史資料の収集・保存・活用についての B 評価は厳しいといえるので、A 評価への修正について検討すべきである。（協議の結果、A に変更となる。）
- ・長岡市資料整理ボランティアの参加人数が増えていることについては、長岡の市民力も上がっていると考えられるので評価できる。

2 課題解決に向けた資料及びサービスの充実を図るとともに、利便性の向上に取り組む。

- ・平成 30 年度、期間限定で実施したベビーパックの取り組みについては、楽しい本、おすすめの本、赤ちゃん向けにテーマを決めて、どんな本かわかるように透明なビニールの袋に入れることで利便性を考慮していた。来年度に本格的に実施するにあたって、大変期待できる。なお、赤ちゃん向けだけでなく、年少児、年中児など幅広く行うことについても検討してもらいたい。

3 市民の要望・意見を広く取り上げ、図書館運営に反映させる。

- ・内部評価のとおりとする。

4 長岡市立図書館開館 100 周年を機に、より積極的な広報や各種機関などとの連携を進め、本と人をつなぐ、様々な事業を実施する。

- ・まちボンの取り組みは、まちなかに本が置いてあり、その本を読む人がいることについては評価できる。まちなか以外の場所においても展開についても検討してもらいたい。図書館開館 100 周年にあたり様々な事業を実施したことについて

は、大変評価できる。

- 地元の作家である松岡達英さんを取り上げたことについては評価できる。今後も、積極的に地元の作家を取り上げて、PR することを期待している。
- 新潟アルビレックス BB とコラボした地域館への巡回については、長岡で盛り上がっている時期でもあり、良い取り組みである。

5 勉強会や職場内研修をはじめ様々な研修機会を確保し、図書館職員の資質の向上を図る。

- 内部評価のとおりとする。

6 子どもや若者が本に親しむ環境づくりに取り組む。

- 貸出冊数を増やす 20 冊キャンペーンなど、子どもたちの欲求に応える取り組みについては評価できるので、今後の実施についても期待している。
- 長岡市学校図書館協議会では、今年も家読にポイントを絞りながら学ぶ機会を設けている。図書館には、様々な場面で家読の効果や具体的な方法を伝えたり、リーフレットを配布したりすることなどについてもさらに検討し、継続することを期待する。
- 学校では、本に親しむ子と、なかなか本に目が向かない子といった二極化の状況が感じられる。そのような中で、子どもを本に向かわせること、メディアをどうコントロールするかといった課題がある。また、学校では、子どもに本の楽しみに触れ合える機会を提供していくことが、さらに大きな課題であると考えられる。そのためには、図書館との連携が必要であり、なお一層協力していくことが期待される。

【目次】

I 基本評価について

1 利用状況	7
2 管理運営費	8

II 重点事項評価について

1 当市をはじめとする郷土に関する各種資料等の収集・保存・活用に努める。

(1) 重点事業の事業別評価について	9
(2) 重点事業の総括評価について	10
(3) 個別事業の実施結果について	11
① 貴重資料の公開	11
② 郷土資料の充実	12
③ 古文書等の歴史資料の収集・保存・活用	13
④ 歴史公文書の収集・保存・活用	15
⑤ 長岡市災害復興文庫の収集・整理・保存・活用	16

2 課題解決に向けた資料及びサービスの充実を図るとともに、利便性の向上に取り組む。

(1) 重点事業の事業別評価について	18
(2) 重点事業の総括評価について	19
(3) 個別事業の実施結果について	20
① 中高生向け図書館しごと応援事業	20
② 庁内行政支援レファレンス	21
③ 子ども連れへのサービス	22
④ 図書館の環境整備	23

3 市民の要望・意見を広く取り上げ、図書館運営に反映させる。

(1) 重点事業の事業別評価について	24
(2) 重点事業の総括評価について	24
(3) 個別事業の実施結果について	25
① 利用者アンケート	25
② 友の会事業	27
③ ご意見ポスの設置	28

4 長岡市立図書館開館 100 周年を機に、より積極的な広報や各種機関などとの連携を進め、本と人をつなぎ、様々な事業を実施する。

(1) 重点事業の事業別評価について	29
(2) 重点事業の総括評価について	29
(3) 個別事業の実施結果について	30
① 長岡市立図書館開館 100 周年記念事業	30
ア 所蔵資料展「図書館資料にみる江戸時代の長岡」展、「図書館開館 100 周年展」	30
イ 図書館開館 100 周年記念式典、としょかんまつり	31
ウ 「画業 50 年 長岡の自然に育まれた松岡達英」展	33
エ 記念講演会「林真理子講演会」	34
オ 図書館開館 100 周年記念誌の発行	35
② 各種機関と連携した事業の実施	36
③ 地域館における特色資料や地域の特色を生かした事業の実施	37

5 勉強会や職場内研修をはじめ様々な研修機会を確保し、図書館職員の資質の向上を図る。

(1) 重点事業の事業別評価について	39
(2) 重点事業の総括評価について	39
(3) 個別事業の実施結果について	40
① 外部研修	40
② 職場内研修	41

6 子どもや若者が本に親しむ環境づくりに取り組む。

(1) 重点事業の事業別評価について	43
(2) 重点事業の総括評価について	43
(3) 個別事業の実施結果について	44
① 子ども読書活動推進計画関連事業の実施	44
② 中高生向け図書館イベントの実施	46
③ 米百俵号による特別巡回の実施	47

I 基本評価について

1 利用状況

項 目	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	評価	備考
入館者数(中央図書館・人)	322,541	304,777	320,532	A	
個人貸出冊数(冊)	1,617,646	1,542,576	1,595,593	A	
予約件数(件)	197,145	189,948	201,286	A	
有効登録者数(人)	48,287	46,541	45,719	B	
登録率(%)	17.63	17.11	16.94	B	
実登録者数(人)	36,580	34,956	35,196	A	
登録率(%)	13.36	12.85	13.04	A	
インターネット アクセス件数(件)	340,938	310,232	277,716	C	
中央図書館開館日数	299	295	295	A	
特別資料の転載等許可件数	117	168	136		参考 数値
郷土資料受入点数	3,322	1,947	2,627	AA	
窓口対応満足度(大変よい +よい)%<中央館のみ>	85.8	87.9	87.2	B	
大活字本の所蔵冊数	6,515	6,778	6,929	A	
新規購入冊数【割合】	34,382 【3.8%】	29,317 【3.4%】	30,688 【3.6%】	A	

*有効登録者数は貸出カード有効期限内の登録者数

*実登録者は有効登録者のうち年度内に1度以上貸出のあった登録者数

2 管理運営費

項 目	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	評価	備考
図書館費 (各年度の決算額・千円)	363,915	382,650	361,413		
(うち施設管理経費)	262,122	257,927	259,323		
(うち資料費)	63,175	59,093	60,413		
(うち事業費)	38,618	65,630	41,677		

Ⅱ 重点事項評価について

1 当市をはじめとする郷土に関する各種資料等の収集・保存・活用に努める。

(1) 重点事業の事業別評価について

①貴重資料の公開

事業概要	・所蔵している貴重資料を定期的にエントランスで展示する。また、貴重資料について、デジタル化・公開していく。	
評価	A	評価理由
		・エントランス展示で貴重資料の展示公開を充実させ、展示替えを Facebook にてお知らせした。

②郷土資料の充実

事業概要	・長岡市や新潟県に關係する歴史・人物・民俗などの郷土資料を収集し登録・保存活用する。 ・話題になった郷土資料を迅速に収集する。	
評価	A	評価理由
		・郷土資料の蔵書数は図書館全体で、昨年度より 3,195 冊増加した。 ・郷土資料のデジタル化を行った。

③古文書等の歴史資料の収集・保存・活用

事業概要	・各種講座の開催、長岡市史双書の刊行、歴史資料所在確認調査などを行う。 ・古文書等の歴史資料の寄贈・寄託を受け、市民の閲覧に供するため順次公開する。	
評価	A	評価理由
		・古文書等の歴史資料の適切な収集・整理・保存・活用に努め、古文書解読講座等の各種講座などで活用した。 ・長岡開府 400 年及び図書館開館 100 周年の記念事業に関する業務を優先したため、古文書等の整理が停滞した。

④歴史公文書の収集・保存・活用

事業概要	・市役所の非現用文書（廃棄文書）を歴史公文書（歴史的資料）として、収集・整理・保存のうえ、目録を作成し、市役所での内部公開を検討する。 ・災害復興関連の歴史公文書は長岡市災害復興文庫として整理する。	
評価	A	評価理由 ・庶務課等の関係各課と連携して、歴史公文書の適切な収集・整理・保存に努めた。

⑤長岡市災害復興文庫の収集・整理・保存・活用

事業概要	・被災歴史資料と中越大震災・東日本大震災等の災害復興関連資料の収集・整理・保存・活用を図る。 ・災害復興関連の歴史公文書を災害復興文庫の資料とする。 ・国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（愛称：ひなぎく）と、データの追加更新などの連携を強化する。 ・長岡市資料整理ボランティアの活動を支援する。 ・刊行物の発行などをとおして、県内外に情報発信を行う。	
評価	A	評価理由 ・長岡市災害復興文庫事業を推進し、市民協働と情報発信に努め、長岡市の災害と復興の経験・教訓を全国発信した。これにより、他の被災地の自治体・関係機関との連携につながった。

（２）重点事業の総括評価について

総括評価	評価理由
A	・貴重資料を有効に展示活用するとともに、話題の本も含め幅広い郷土資料の収集に努めた。また、長岡市災害復興文庫事業を推進し、長岡市資料整理ボランティアとの市民協働、全国の関係機関・団体との連携などをとおして、長岡市の災害と復興の経験・教訓を全国発信し反響があった。

(3) 個別事業の実施結果について

① 貴重資料の公開

＜目的・概要＞	
・中央図書館のエントランスでの貴重資料展示回数を確保するとともに、図書館報「図書館の窓から」で紹介し、市民に所蔵資料を紹介する。	
ながおかネットミュージアム	エントランス展示
 明治元年越後大合戦略図	 鈴木牧之関係資料
＜実績＞	
① ながおかネットミュージアム （平成30年度実績）北越戊辰戦争関係の貴重資料の14点を追加。 （平成29年度実績）「河井継之助書・印譜」等11点を追加した。 ② エントランス展示回数 （平成30年度実績） 11回 （平成29年度実績） 16回 「図書館の窓から」で紹介している所蔵資料を展示し、そのほか鈴木牧之や小林虎三郎の軸物など図書館資料11点の紹介を行い、貴重資料を数多く市民に公開する機会となった。	
＜課題・今後の方向性＞	
・約200点の貴重資料をネットミュージアムで公開しており、将来のオープンデータとしての公開も視野に入れながら、計画的に貴重資料などのデジタルデータ化を進めていく必要がある。 ・デジタルアーカイブを構築する図書館が増加しており、全国的な傾向を参考にしながら今後の展開と活用を考えたい。	

② 郷土資料の充実

<目的・概要>

- ・長岡市内の郷土資料を中心に、新潟県内の郷土資料についてより一層の充実を図る。
- ・図書館の開館 100 周年や開府 400 年、戊辰戦争 150 年を意識した資料の収集を行う。
- ・行政からの収集のほか、新聞・雑誌、書店など出版情報の収集を行い、幅広い資料の収集に努める。
- ・図書館未設置地域に関する郷土資料は中央図書館にて継続して収集する。

<実績>

全館（中央館と地域館すべて）の郷土資料蔵書数

	全館郷土資料蔵書数 (各年度3月31日現在の所蔵)	前年比 増加冊数
平成 26 年度	88,053 冊	3,266 冊
平成 27 年度	91,143 冊	3,090 冊
平成 28 年度	94,465 冊	3,322 冊
平成 29 年度	96,412 冊	1,947 冊
平成 30 年度	99,039 冊	2,627 冊

- ・新聞や、雑誌に掲載された郷土資料について情報を収集し、迅速な発注・寄贈依頼、登録を行った。
- ・開府 400 年や戊辰 150 年、河井継之助の映画化発表の影響もあり当館の貴重資料や郷土資料を使用した出版物が増加した。

<課題・今後の方向性>

- ・郷土資料の収集においては、地域の情報を新聞や出版案内を基に情報収集するとともに、県内の情報を含めて網羅的に収集する必要がある。
- ・毎年度定期的に市役所各課に資料寄贈依頼を行っており、一定の量の収集を行っているが、今後は各支所に積極的に働きかけるなど、支所地域の資料の収集に力を入れていく必要がある。

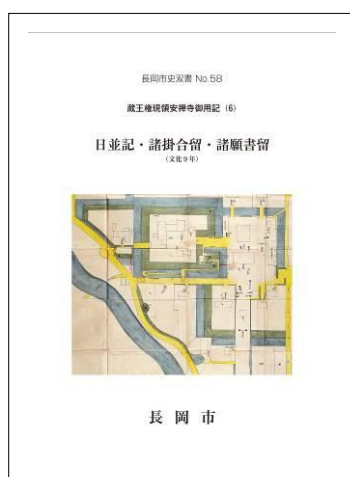
③ 古文書等の歴史資料の収集・保存・活用

<目的・概要>

・郷土長岡の歴史を知り、愛着をもってもらうため、文書資料室が所蔵する郷土資料を活用し、各種講座の開催、長岡市史双書の刊行を行う。また郷土の歴史資料を守るため、歴史資料の取扱いについて相談を受け付けている。

・古文書等の歴史資料の寄贈・寄託を受け、市民の閲覧に供するため順次公開する。

長岡市史双書No.58



長岡市史双書を読む会



<実績>

古文書等の歴史資料の保存・公開に努めた。古文書等の歴史資料を活用し、各種講座の開催・長岡市史双書の刊行を行い、郷土長岡の歴史を知る機会を市民に提供した。

(今年度実績)

・各種講座の開催

講座名	回数	参加人数	会場
古文書解読講座「古文書のいろは」	3回	127人	中央公民館
古文書解読講座「古文書にみる長岡のすがた」	各4回	193人	中央公民館
		66人	中央図書館
長岡市史双書を読む会	2回	109人	中央図書館

(参加人数は延べ人数)

- ・新たに公開した古文書等の歴史資料の件数 24件 (内訳: 寄贈19件・移管1件・寄託4件)
- ・長岡市史双書No.58『蔵王権現領安禅寺御用記(6)』 600部刊行
- ・歴史資料取扱い相談受付数 8件 (うち訪問調査回数 5件)

(昨年度実績)

・各種講座の開催

講 座 名	回数	参加人数	会 場
古文書解読講座「古文書のいろは」	3回	123人	中央公民館
古文書解読講座「古文書にみる長岡のすがた」	6回	333人	中央公民館
長岡市史双書を読む会	3回	270人	中央図書館
古文書相談の日	3回	16人	文書資料室

(参加人数は延べ人数)

- ・新たに公開した古文書等の歴史資料の件数 21件 (内訳：寄贈20件・移管1件・寄託0件)
- ・長岡市史双書No.57『大正記念長岡市立互尊文庫 市立図書館の開館と戦災復興』800部刊行
- ・歴史資料所在確認調査 与板地域を調査。調査箇所 1か所
- ・歴史資料取扱い相談受付数 11件 (うち訪問調査回数 5件)

<課題・今後の方向性>

- ・古文書解読講座「古文書にみる長岡のすがた」は、参加者の利便性を高めるため、今年度から水曜夜間(会場：中央公民館)に加えて、日曜午後(会場：中央図書館)を同内容で開催した。参加者のライフスタイルにあわせた申し込みがあり、新規の参加者もあり好評であった。
- ・古文書等の歴史資料は、所有者の家の建て替えや代替わりで、個人での保存が難しく、そのまま寄贈となる例が多い。今後も、受け入れ件数の増加が見込まれることから、保管場所を確保するとともに計画的に整理・公開を進めていく必要がある。また、古文書解読講座等の主催行事の機会をとらえて、歴史資料を後世に伝えていくための意識付けをはかる普及活動を行っていきたい。

④ 歴史公文書の収集・保存・活用

<目的・概要>

- ・長岡市役所の非現用文書（廃棄文書）を歴史公文書（歴史的資料）として、収集・整理・保存する。
- ・歴史公文書の目録を作成し、市役所での内部公開を検討する。
- ・災害復興関連の歴史公文書を長岡市災害復興文庫として整理する。

歴史公文書の保存箱



歴史公文書の整理作業



<実績>

（今年度実績）

- ・歴史公文書の目録件数 892点（95箱） 内長岡市災害復興文庫の歴史公文書234点（29箱）
- ・保管場所 旧半蔵金小学校・旧種芋原小学校・浦瀬町倉庫・各支所など
- ・歴史公文書の問い合わせ件数 11件

（昨年度実績）

- ・歴史公文書の目録件数 990点（103箱） 内長岡市災害復興文庫の歴史公文書149点（26箱）
- ・保管場所 旧半蔵金小学校・旧種芋原小学校・浦瀬町倉庫・各支所など
- ・歴史公文書の問い合わせ件数 3件

<課題・今後の方向性>

- ・庶務課と連携して目録の内部公開に向けてさらに協議を進める必要がある。
- ・歴史公文書の収集・保存に関する基準を再検討し、長岡市のガイドラインを作成する必要がある。

⑤ 長岡市災害復興文庫の収集・整理・保存・活用

<目的・概要>

- ・災害と復興の経験・教訓を後世に伝える。
- ・被災歴史資料と中越大震災・東日本大震災等の災害復興関連資料の収集・整理・保存・活用を図る。
- ・災害復興関連の歴史公文書を災害復興文庫の資料とする。
- ・国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（愛称：ひなぎく）と、データの追加更新などの連携を強化する。
- ・長岡市資料整理ボランティアの活動を支援する。
- ・刊行物の発行などをおして、県内外に情報発信を行う。

長岡市資料整理ボランティア（古文書整理）



長岡市資料整理ボランティア（新聞資料整理）



<実績>

（今年度実績）

- ・長岡市災害復興文庫事業
 - 長岡市資料整理ボランティア&十日町市古文書整理ボランティア交流会の開催
会場：互尊文庫 参加者 26人（長岡14人、十日町12人）
 - 関連書籍の刊行（新潟大学人文学部教授・矢田俊文氏と共編、発行：新潟大学）
『現代災害史研究と史料保存 写真帳「災害記録 長岡市」を中心に』
 - 国立国会図書館東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」に中越大震災時に四郎丸コミュニティセンターで撮影された記録写真58点を新規コンテンツとして追加した。
- ・長岡市資料整理ボランティアは、延べ20回活動、延べ247人の参加があった。
- ・新潟歴史資料救済ネットワークは、山古志地域で1回活動、40人の参加があった。

（昨年度実績）

- ・長岡市災害復興文庫展 2017 企画展「震災避難所の記録と記憶」及び記念シンポジウム「あつめる・整理する・つたえる～震災復興と図書館のアーカイブ機能～」を開催した。
- ・長岡市資料整理ボランティアは、延べ16回活動、延べ166人の参加があった。
- ・新潟歴史資料救済ネットワークは、山古志地域で1回活動、41人の参加があった。
- ・全国歴史資料保存利用機関連絡協議会（全史料協）に加盟し、神奈川県相模原市で開催された全国大会に参加した。

＜課題・今後の方向性＞

- ・平成26年10月に開設した「長岡市災害復興文庫」の市民へのPRを継続するとともに、歴史公文書の収集・保存などの充実を図っていく必要がある。
- ・今後も、国立国会図書館との連携や全史料協の活動などをおして、県内外の文書館・図書館・博物館とのネットワークの構築を図るとともに、長岡市資料整理ボランティアや新潟歴史資料救済ネットワークなどにより一層の連携を図る必要がある。

2 課題解決に向けた資料及びサービスの充実を図るとともに、利便性の向上に取り組む。

(1) 重点事業の事業別評価について

①中高生向け図書館しごと応援事業

事業概要	・若者向けのビジネス支援や将来の職業を考えるための資料などを提供し、「若者自らが魅力を生み出すまちづくり」を積極的に応援する。	
評価	A	評価理由
		・仕事に関する資料をさらに充実させ、中高生向け広報誌で関連本を紹介するなど広報活動にも取り組んだ。

②庁内行政支援レファレンス

事業概要	・市の行政に関する調査について、図書館資料を用いて支援することで、図書館の有用性をPRし、行政との連携を強化する。	
評価	A	評価理由
		・順調に依頼を受けており、回答も迅速に行っている。

③子ども連れへのサービス

事業概要	・子どもの読書活動を支援するために、子育て世代が利用しやすいサービスを提供する。 ・地域図書館では、子育て世代の利用者にも、図書館を気軽に利用してもらえるような取り組みを実施する。	
評価	A	評価理由
		・児童室の環境整備や興味をひくイベントを通じて、子育て世代が利用しやすいサービスを提供することができた。

④図書館の環境整備

事業概要	・安全・快適にご利用いただけるよう空調設備の入替等環境を整備する。	
評価	A	評価理由
		・経費面の制約はあるが、優先順位をつけ整備を行った。

(2) 重点事業の総括評価について

総括評価	評価理由
A	・利用者のニーズに応じた資料の充実や、施設改修により、利用者の利便性が向上した。

(3) 個別事業の実施結果について

① 中高生向け図書館しごと応援事業

<目的・概要>

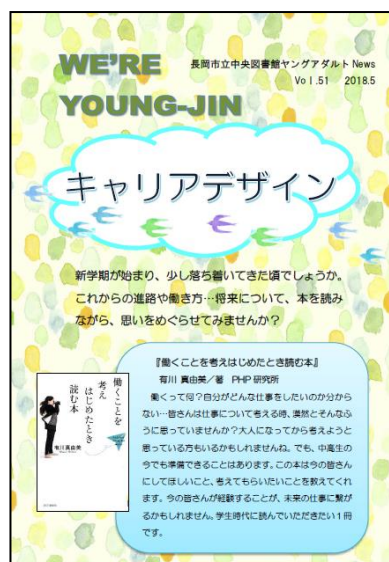
- ・若者向けのビジネス支援や将来の職業を考えるための資料などを提供し、「若者自らが魅力を生み出すまちづくり」を積極的に応援する。
- ・中高生の職場体験や夏休みボランティアのプログラムに、データベースを使った調査体験を行う。
- ・中高生向け広報紙で関連本を紹介する。



中高生しごと応援コーナー

<実績>

- ・中高生しごと応援コーナーに新たに約60点を追加購入し、コーナーが約670点と充実した。
- ・視聴覚コーナーにあった若者に職業を紹介するDVDを、中高生しごと応援コーナーに移動し、本と一緒に並べることで、若者が手に取りやすくなるよう工夫した。
- ・職場体験や夏休みボランティアに参加した中高生に、オンラインデータベースを使って回答する問題に取り組んでもらった。
- ・中高生向け広報紙「YOUNG-JIN」(やんじん)を年4回作成し、市内の中学校1年生全員に配布し、本を紹介している。5月号では「キャリアデザイン」をテーマに進路や働き方など将来を考える際に参考になる本を紹介した。11月号では「おとなの伝記」をテーマに、立派なエピソードだけではない、生身の人間の生き方が伝わる本を紹介した。また、職場体験などで来館した中高生におすすめの本の紹介文を書いてもらい、毎号掲載している。



中高生向け広報紙「YOUNG-JIN」(やんじん)

<課題・今後の方針>

中・高校生世代の利用をさらに伸ばす取り組みを工夫し、さらなる広報を続けていきたい。

② 庁内行政支援レファレンス

<目的・概要>
市の行政に関する調査について、図書館資料を用いて支援することで、図書館の有用性をアピールし、行政との連携を強化する。
<実績>
30年度は23件の問い合わせがあった。(29年度 13件) 例)・六十九銀行、最初の市役所等の写真について ・山古志地域でのかぐら南蛮の栽培について ・長岡藩で奨励されていた武芸について
<課題・今後の方針>
行政への支援を足掛かりに、他の企業や一般利用者からのビジネスに関するレファレンスに活かせるようにスキルを磨いていく必要がある。 市役所の他部署に対して、図書館が課題解決の支援をしていることをアピールをしていく。

③ 子ども連れへのサービス

<目的・概要>

乳幼児における読書活動の推進を図るために、子育て世代が利用しやすいサービスを提供する。

地域図書館では、子育て世代の利用者にも、図書館を気軽に利用してもらえるような取り組みを実施する。

<実績>

- ・おはなしのへやと大型絵本コーナー等をリニューアルした。絵本用書架の寄贈があり、既存の棚の配置を変えたことで、見通しが良くなり明るくなった。大型絵本棚も寄贈されたため、より多くの大型絵本を置けるようになった。
- ・長岡の絵本作家松岡達英さんと諸橋精光さんのコーナーを児童室の奥から目立つ場所に移動し、親しめるようにした。
- ・クリスマスやお正月など季節ごとに行う休日の読み聞かせ会は参加者が多く盛況だった。
- ・赤ちゃん絵本 3冊をあらかじめ袋に入れたベビーパックを期間限定で用意した。ゆっくり絵本を選ぶ時間のない方や絵本選びに迷う方に好評だった。
- ・地域図書館では、4月より互尊文庫、西・南・栃尾地域図書館で定例のおはなし会の後「おやこタイム」を導入した。その他の館では、昨年度も実施した『絵本セラピー®講座「大人に、絵本」』（南地域図書館）、『としょかんDEおやこタイム』（北地域図書館）、『おはなしひろば012』（中之島地域図書館）、『おやこタイム』（寺泊地域図書館）を引き続き行った。大きな反響は見られないが、用意した撮影スポットが好評だったり、保護者同士で会話を楽しめたりと良い反応があった。



チビッコタイム夏休みスペシャル



お正月だよ！よっといで！カルタとり

<課題・今後の方針>

赤ちゃん向けの会は人気で会場がいっぱいになることもあるが、平日のおはなし会の参加者数は平年並みにとどまっている。夏休みや休日の行事には小学生も大勢参加している。行事内容や時間帯を工夫し、対象に合わせた広報活動を行いたい。

「おやこタイム」の導入により、一時的に親子の読み聞かせする声や小さいお子さんの声が周囲に聞こえる状況になった場合でも、利用者から咎める話も無く順調に運用出来ている。今後ご理解を得ながら続けていきたい。

④ 図書館の環境整備

<目的・概要>

図書館を安全・快適にご利用いただけるよう施設の改修等を行う。

<実績>

日常の点検や利用者のご意見等から、必要なものを選び、優先順位をつけ整備・改修を行った。

具体的には、当初計画により、中央図書館1階閲覧室の照明の一部をLEDに交換し、南地域図書館の空調設備改修工事の設計及び西地域図書館の排水管を改修した。また、大阪府北部地震によりブロック塀が倒壊し死亡事故が発生したことを受け、互尊文庫のブロック塀を改修した。さらに、昨年度に引き続き中央図書館西側駐車場の白線の整備を行った。



中央図書館 1階閲覧室照明



互尊文庫 ブロック塀

<課題・今後の方針>

設備の老朽化により、快適にご利用いただくためには、改修しなければならない箇所が多くなっている。

限られた予算の中で、少しずつ計画的に実施していきたい。

3 市民の要望・意見を広く取り上げ、図書館運営に反映させる。

(1) 重点事業の事業別評価について

①利用者アンケートの実施

事業概要	・毎年夏期にアンケートを実施し、利用者のニーズを把握することにより、運営に役立てる。	
評価	A	評価理由
		・アンケートにより利用者のニーズを把握し、業務に活かすことができた。

②友の会事業

事業概要	・利用者が集い、読み聞かせや書架整理などの様々な活動を通して図書館を応援する。	
評価	A	評価理由
		・古本市や視察研修への会員の積極的な参加が見られた。

③ご意見ポスの設置

事業概要	・寄せられた意見を毎月集約し、図書館運営に反映させる。	
評価	A	評価理由
		・評価はおおむね良好であり、意見への対応も全て検討し可能な限り改善した。

(2) 重点事業の総括評価について

総括評価	評価理由
A	・おおむね順調な業務・活動を行っており、寄せられた意見に対応した。

(3) 個別事業の実施結果について

① 利用者アンケート

＜目的・概要＞	
・例年どおり実施し、昨年との比較や現状の利用者の意見を把握する。	
アンケート項目	
【中央図書館】 ＜利用者アンケート＞ ○ 館内や本棚の表示について ○ 本の種類の充実度について ○ 図書館の本やサービスが役立ったことについて ○ 希望するサービスについて など	【地域図書館】 ＜利用者満足度アンケート＞ ○ スタッフについて 挨拶や言葉づかい、接客対応など（3項目） ○ 施設の快適さについて 設備、分かりやすさ、案内情報（4項目） ○ 図書館サービスについて 資料の充実、展示物などについて（5項目）
＜実績＞	
○ 中央図書館のアンケート 昨年同様8月に6日間のアンケートを実施した。アンケートは時間を決めてエントランスで配布。夏休みボランティアに参加している中学生に配布を手伝ってもらったところ、利用者の反応がよかった。窓口対応については、「大変よい」＋「よい」が87.2％と好評をいただいた。「大変よい」が40.5％から44.4％に上昇し、昨年同様高い満足度を得られた。 （今年度実績） 配布数 1,037 回収数 780 回収率 75.22％ （昨年度実績） 配布数 912 回収数 730 回収率 80.04％ ○ アンケート結果への対応 窓口対応については毎年意見にあがるため、一層注意を払うよう心がける。 閉館時ブラインドを下げる時間帯に配慮したり、利用者へのマナー周知などを行った。	
○ 地域図書館のアンケート （今年度実績） 配布・回収数 1,689（全て回収） （昨年度実績） 配布・回収数 793（全て回収） 8月1日から24日までアンケートを実施した。今年度は「指定管理者施設利用者満足度調査」の実施年のため、期間を長く設定し昨年度の倍以上の回収に努めた。スタッフに関する設問は昨年同様高い評価をいただいた。ご意見・ご要望としては、資料の充実、駐車場の拡大、空調管理に関するものが多かった。	

＜課題・今後の方針＞

(中央図書館)

- ・自由意見の中でも、窓口対応に感謝してくださる意見が多くみられた。
- ・新刊や話題の本の充実を希望する意見があった。毎週２００冊程度の新刊書を購入しているが、すぐに貸し出されるため、利用者には新刊書が少ない印象を与えてしまっているのかもしれない。今後は、新刊本や話題の本を所蔵していることをお知らせするような工夫をしていきたい。
- ・「図書館の本やサービスが日常生活に役に立ったことがあるか」という設問に、８割以上が「ある」、「仕事上で役に立ったことがあるか」という設問には、６割以上が「ある」と回答した。今後も生活や仕事の役に立つような資料収集やサービスに努めていきたい。
- ・本アンケートは来館者対象に実施しているため、未利用者の意見が反映されない。新規登録者を増やすには、未利用者の意見を聞く機会があるとよい。

(地域図書館)

- ・アンケート項目の中で、資料の充実に関する設問の評価が一番低く、各館ごとの自由意見の中にも「新しい本を多く入れてほしい」という要望が多くあった。現在、中央図書館所蔵の資料から定期的に入れ替えを行っているが、それをご存じの利用者から「今より多くしてほしい」という声もあったので、今後の選書時に考慮していきたい。
- ・空調管理に関するご意見については、フロアによって効きが良い箇所悪い箇所があるため、館内の状態を見ながらその都度調整を行っていく。
- ・駐車場の拡大については、今以上にスペースを設けることは困難なため、ご理解いただけるよう案内を続ける。

② 友の会事業

＜目的・概要＞	
図書館支援団体として図書館と連携し、活動を運営に活かす。	
なりふ古本市	図書館視察
6月 9日（土）9時45分～正午 6月10日（日）9時45分～16時 店主8名（うち図書館員3名）  【内容】 ・会員が持ち寄った本等の販売 【成果】 ・816冊を販売し、8,900円の売り上げがあった。売り上げの3割、2,670円を社会福祉協議会のともしび基金へ寄付した。	6月20日（水） 視察先 柏崎市立図書館 ドナルド・キーン・センター柏崎 絵本と珈琲 松濤 参加者 18名（図書館職員同行3名）  【内容】 ・視察先の職員から館内の案内や活動概要の説明を受けることができ、参考になった。 ・会員からは、訪問先が多く充実した研修だったとの声が多数聞かれた。
＜実績＞	
4回目となる「なりふ古本市」は、「としょかんまつり」の催しの1つとして行い、大いに賑わった。会員同士の交流や市民との本を通じた交流を持つことができ、有意義な時間となった。今後も会員の要望を聞きながら、視察先の検討や図書館活動の応援に繋がる様々な取組を行っていきたい。 （今年度実績） なりふ古本市開催、書架整理、おはなし会、布絵本の会、つぐみの会、など 個人会員 40名 賛助会員 60 （昨年度実績） なりふ古本市・映画会開催、書架整理、おはなし会、布絵本の会、つぐみの会、など 個人会員 43名 賛助会員 50	
＜課題・今後の方針＞	
古本市等のイベントを通して、幅広い世代に友の会について知ってもらい、新規会員の加入促進に繋げたい。また、今後も会員が主体となった企画・運営の取組みの支援が必要である。	

③ ご意見ポスの設置

<目的・概要>	
・開かれた図書館とするため、利用者の意見や要望を広く収集し、今後の運営に役立てる。 ・意見の回答を掲示するとともに、事業改善を行う。	
<主な要望>	
(中央図書館) ○ 資料の無断撮影を禁止する旨をもっと周知してほしい。 ○ 「●●●」に関する資料を入れてほしい。 開館時間を延長してほしい。 など	(地域図書館) ○長時間寝ている年配の人がいる。なんとかしてほしい。 ○学習席での中学生グループの私語に困っている。 など
<実績>	
(中央館) ・毎月意見を集約し、可能な限り対応した。 ・窓口対応については、おおむね好評価をいただいている。 ・意見を受けて、スマートフォンの使用（無断撮影の禁止も含む）について、注意喚起を促す掲示を行った。 ・資料に関する要望には、可能なものはその都度対応した。	
(地域館) ・意見に対し可能な限り対応した。 ・居眠りをされている方には巡回時にお声掛けしているが、今後も気を付けていく旨回答した。 ・意見のあった館では学習席を設けており、以降複数名で利用される方には、席札を渡す際にあらかじめ声掛けをするようにした。	
<課題・今後の方針>	
普段職員が気付きにくいことについての意見が多かったので、利用者の目線に立ったサービスの改善を一層心がけていく必要がある。	

4 長岡市立図書館開館 100 周年を機に、より積極的な広報や各種機関などとの連携を進め、本と人をつなぎ、様々な事業を実施する。

(1) 重点事業の事業別評価について

①長岡市立図書館開館 100 周年事業

事業概要	- 以下の 100 周年記念事業を実施し、米百俵のまち長岡の魅力と歴史を発信するとともに、市民に愛される図書館を目指し、利用者の拡大を図る。 - ア 所蔵資料展「図書館資料にみる江戸時代の長岡」展 「図書館開館 100 周年展」を併催 - イ 開館 100 周年記念式典、としょかんまつり - ウ 「画業 50 年 長岡の自然に育まれた松岡達英」展 - エ 記念講演会「林真理子講演会」 - オ 図書館開館 100 周年記念誌の発行	
評価	AA	評価理由
		様々な事業を通して、米百俵のまち長岡の魅力と歴史、図書館の活動を発信することができた。

②各種機関と連携した事業の実施

事業概要	他の行政機関が実施する企画と連携し、お互いの利用の相乗効果を図る。	
評価	A	評価理由
		テーマコーナーにおける資料紹介や出張展示などさまざまな連携を図ることができた。

③地域図書館における特色資料や地域の特色を生かした事業の実施

事業概要	近隣団体、学校、地元商店街等との繋がりをさらに深め、連携した行事を積極的に実施する。	
評価	A	評価理由
		各地域図書館が持つ特色資料の関連事業の他、近隣の学校や団体等と連携した事業も積極的に実施した。

(2) 重点事業の総括評価について

総括評価	評価理由
AA	中央図書館・地域図書館ともに、工夫をこらし、多様な事業展開に取り組み、入館者数や個人貸出冊数の増加につながった。

(3) 個別事業の実施結果について

① 長岡市立図書館開館 100 周年事業

ア 所蔵資料展「図書館資料にみる江戸時代の長岡」展・「図書館開館 100 周年展」

<目的・概要>

長岡市の図書館が開館以来、積極的に収集してきた牧野家関係の資料や長岡藩ゆかりの資料など、長岡市立図書館の所蔵する長岡市指定文化財 16 点を含む 161 点を公開。

あわせて、「図書館開館 100 周年展」と題して、1918 年に開館した大正記念互尊文庫と長岡の図書館の 100 年を振り返る展示をした。



牧野家 17 代当主牧野忠昌さんによるごあいさつ



長岡郷土史研究会会員資料本山幸一さんによる展示解説

<実績>

- ・入場者数 3,672 人 (22 日間)
- ・主な展示内容
 - ◆「江戸時代の長岡展」【展示総数 161 点】
 - ・徳川十七将ノ図 ・牧野忠精画 雨龍 ・水島爾保布画 昔の長岡十二か月
 - ・明治元年越後大合戦略図 ・河井継之助 塵壺
 - ◆「図書館開館 100 周年展」【展示総数 86 点】
 - ・野本恭八郎肖像画 ・野本恭八郎書 ・互尊文庫日誌
- ・展示解説 4 回 参加者合計約 100 人
- ・入場者アンケートからは「長岡の歴史の奥深さを知ることができてよかった」「長岡藩の資料や昔の様子がよく分かった」「貴重な資料の豊富さに驚いた」「資料が残っていることがすごい」「子どものころ互尊文庫を利用してとても懐かしかった」「互尊独尊の意味に感銘した」と好評であった。
- ・「もう少し展示解説が詳しいとよかった。」という意見もあった。
- ・長岡開府 400 年と戊辰 150 年の記念すべき年であったため、関係する資料を意識して展示し、それらを特に興味深く見てもらう展示ができた。
- ・新聞等の報道やチラシ、ポスターの掲示の効果もあり、多くの入場者があった。

<課題・今後の方針>

所蔵している貴重資料を公開する場を定期的に設け、図書館の歴史だけでなく、長岡の歴史に触れる機会を作っていきたい。

イ 図書館開館 100 周年記念式典、としょかんまつり

<目的・概要>

- ・平成 30 年6月8日が互尊文庫が開館してから 100 年を迎えるため、記念式典を開催するもの
- ・開館記念日を含む3日間に市内各館でさまざまなイベントを行い、100 周年を祝うとともに図書館利用の PR を図るもの



記念式典での磯田市長のあいさつ



としょかんまつり
各イベントにたくさんの利用者が参加し賑わいをみせた

<実績>

- ・開館 100 周年記念式典

開催日：平成 30 年6月8日(金)

会 場：中央図書館 講堂

参加者：長岡市長、長岡市議会議長、長岡市議会文教福祉委員会委員、長岡市教育委員会委員、県内図書館長、長岡市図書館協議会委員、図書館友の会、お話ボランティアのみなさんほか
120 人が出席

内 容：式 辞 長岡市長 磯田達伸

来賓祝辞 長岡市議会議長 丸山 勝総 氏

来賓紹介

映像上映 「長岡市立図書館 100 年のあゆみ」

記念講話 「互尊翁と互尊文庫」 河井継之助記念館 館長 稲川 明雄 氏

映像上映 「未来へつなぐ図書館の活動」

挨拶 長岡市立中央図書館 館長 山田 あゆみ

- ・としょかんまつり

スタッフの手作りなど、工夫を凝らした演出で、3日間を通し多くの方に来館いただき、どの会場も大盛況だった。

指定管理者である TRC や図書館友の会とも連携が図れ、今後の事業展開を考える機会となった。

図書館玄関前の広場で、「えんにちコーナー」を実施したり、移動販売車や米百俵号を設置したりしたことで、図書館全体の賑わいを演出することができた。

【参加人数】					
		6月8日(金)	6月9日(土)	6月10日(日)	
中央	(来館者数)	(1,082 人)	(1,845 人)	(1,838 人)	
図書館	互尊文庫歴史散歩	18 人			
	映画会		18 人 「疎開した 40 万冊の図書」	143 人 「ベトナムの風に吹かれて」	
	DVD にいがた偉人伝上映会		32 人	21 人	
	なりふ古本市		109 人	150 人	
	くずし字講座		18 人	22 人	
	リクガメとあそぼう		240 人		
	えんにちコーナー		252 人	213 人	
	おはなし会		24 人	21 人	
	米百俵号ブックカーニバル			59 人	
	米百俵号貸出		200 人	184 人	
	缶バッジ配布	100 個	250 個	250 個	
	折り紙しおり・マナーカード		配布数 2,200 枚		
	貸出カード新規登録	14 人	38 人	27 人	
互尊 文庫	互尊文庫探検隊		1 人		
	互尊翁紙芝居上演		8 人		
	人形劇上演		29 人		
	縁日あそび		38 人		
	ハンドメイド講座			10 人	
西	おはなし会		22 人 (おさかなスペシャル)	3 人 (ぼんっ!とむかしぼなし)	
南	大人のための絵本セラピー			4 人	
北	野菜スタンプのワークショップ		11 人		
	あおぞらおはなし会			18 人	
中之島	ミニエコBOOKS			配付数 346 冊	
	オリジナル傘をつくろう			19 人(満員)	
栃尾	おたのしみ「ぷち」上映会		14 人		
	羊毛フェルトでブローチ作り		14 人		
＜課題・今後の方針＞					
これらの100周年事業を契機に、今後も引き続き、図書館の利用を促進させていく工夫が必要である。					

ウ 「画業 50 年 長岡の自然に育まれた松岡達英」展

<目的・概要>

長岡市出身・在住で、ミリオンセラーの人気絵本『ぴょーん』などで知られ、世界的に活躍されている科学絵本作家 松岡達英さんの作品と人物を紹介。長岡の自然を題材にした絵本原画を中心に、スケッチ、昆虫標本、流木工作、関連本等約 570 点を展示した。



オープニングセレモニー



関連行事「松岡達英さんと楽しい親子自然観察会」
では、図書館近くの自然を散策した。

<実績>

- ・入場者数 3,643 人（16 日間）
- ・展示構成
 - ①松岡さんが影響を受けた本 ②松岡達英さんと長岡 ③長岡の自然を描く ④海外の自然を描く
 - ⑤松岡達英さんのあゆみ ⑥ミリオンセラー『ぴょーん』紹介
- ・関連行事等
 - ◆ギャラリートーク（2 回）参加者数合計 80 人
 - ◆サイン会 参加者数合計 43 組
 - ◆松岡達英さんと楽しい親子自然観察会 18 人
 - ◆関連本コーナー設置（市立図書館全館・まちなか絵本館）
 - ◆川口地域との連携（巡回展・スタンプラリー）
- ・入場者アンケートでは「松岡さんの人生や世界が良くわかった」「同郷に、こんなすばらしい作家さんがいることを誇りに思う」「作品を通じて自然の美しさを感じた」「絵が命を持っているようだ」「虫の声やカエルの声などの BGM、撮影スペース等が良かった」「子どもが楽しみ、絵に対するモチベーションがあがった」等の感想が寄せられた。
- ・一方で「おもちゃの動いている様子が見たかった」「字を大きくして欲しい」「設置してある本をゆっくり読めるスペースが欲しかった」「本やグッズを売って欲しかった」「松岡さんをもっと PR して欲しい」等のご意見もいただいた。
- ・松岡さんの絵本原画や資料にからめて多くの関連書籍を紹介できたこと、あまり知られていないこれまでの膨大な量の業績を詳細な年表にまとめることができたこと等、他の展覧会にはない図書館らしい展示にすることができた。
- ・長岡の自然を多くの絵本に描き、世界で評価される松岡さんの人物と作品を紹介できたことは、長岡の魅力を再発見する機会となり、開府 400 年関連事業としても意義あるものとなった。

(昨年度実績)

開館 100 周年プレイベント 詩人 堀口大樹と長岡展 1, 227 人 (11 日間)

＜課題・今後の方針＞

今後、所蔵品を紹介する展覧会を企画するにあたり、これまでにない新鮮で魅力的な切り口や構成を工夫していく必要がある。

エ 記念講演会「林真理子講演会」

＜目的・概要＞

文壇の重鎮であり、長岡市とゆかりのある作家・林真理子さんの講演会を開催。会場や講演会内において、長岡市立図書館の歴史と現在の活動を紹介した。



平成 30 年 NHK 大河ドラマ「西郷どん」原作者でもある林真理子さんの講演



会場のロビーで長岡市立図書館の開館から現在までのあゆみを展示で紹介

＜実績＞

・応募はがき枚数 1,482 枚 2,712 人分

〈内訳〉市内在住・2 人参加希望 1,107 枚

市外在住・2 人参加希望 123 枚

市内在住・1 人参加希望 205 枚

市外在住・1 人参加希望 47 枚

・当選人数(定員) 1,500 人

・参加者 1,300 人

・講演会プログラム

市長挨拶

映像上映「長岡市立図書館 100 年のあゆみ」

映像上映「未来へつなぐ図書館の活動」

林真理子講演会「私の仕事から」

・来場者アンケート(回答: 308 人)で、図書館を利用しているがその歴史については知らなかったという回答が多くあり、講演会をきっかけに長岡市立図書館について知ってもらうことができた。

・参加予定人数が 1,500 人という大規模なイベントであったが、参加者募集から講演会終了後の撤収まで滞りなく行うことができ、今後のイベント開催における経験を積むことができた。

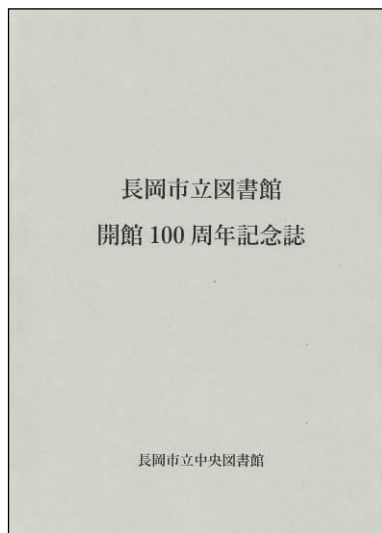
＜課題・今後の方針＞

講演会をきっかけに図書館に興味を持った参加者から、実際に図書館を利用・活動に参加してもらうための機会や仕組み作りが必要である。

オ 図書館開館 100 周年記念誌の発行

<目的・概要>

図書館開館 100 周年を記念し、互尊文庫創立から現在までの長岡市立図書館のあゆみをまとめた小冊子を作成し、記録として残すもの。



表紙



中身

<実績>

- ・タイトル 「長岡市立図書館開館 100 周年記念誌」
- ・発行日 平成 31 年 3 月 31 日
- ・ページ数 92 ページ
- ・発行部数 700 部
- ・内容
 - (1) 巻頭あいさつ
 - (2) 写真資料
 - (3) 第1章 開館 100 周年記念事業
 - ブレイバント、開館 100 周年記念事業、「図書館の思い出」から
 - (4) 第2章 図書館のあゆみ
 - 図書館の歴史、さまざまな図書館サービス、コラム 図書館の歴史から
 - (5) 第3章 資料編
 - 長岡市図書館一覧、所蔵資料数等の経過、年表 など
- ・配布先 長岡市図書館協議会委員、図書館友の会、県内各図書館など

<課題・今後の方針>

作成した冊子を図書館の PR のために有効に活用する。

② 各種機関と連携した事業の実施

<目的・概要>

- (1) 他の行政機関等が実施する企画と連携し、お互いの利用の相乗効果を図る。
- (2) 中心市街地整備室との共催事業「まちぼん」で、まちなかの施設4か所で出張展示を行う。

新潟アルビレックスBBと初コラボ



認知症ブックフェア



<実績>

- (1) 各種機関と連携し、館内に関連書籍を紹介するコーナーを設置した。新潟日報に掲載されるなど注目を集めた。

① 市役所他課との連携

- ・環境政策課「長岡市トキと自然の学習館トキミーて開館」(8月)、長寿はつらつ課「認知症ブックフェア」(9月に全館で実施。中央館では認知症ミニ講座開催、認知症のイベント(RUN伴)に場所提供)、健康課「自殺対策強化月間」(3月)、NaDeC BASEでイノベーション関連図書展示(毎月40冊を展示替え・6月から継続)
- ・みしま公民館図書室、ウィルながおかの蔵書構成・分類方法等について支援

② 県内外の他施設との連携

会津若松図書館「戊辰150周年 河井継之助がつなぐ長岡と会津若松」(4・5月)、
県立万代島美術館「レオ・レオーニ展」(10～12月)、県立歴史博物館「村の肖像」(1月)

③ 市内の団体等との連携

- ・長岡まちゼミ実行委員会・産業支援課「長岡まちゼミ」(年2回、7・8月、1・2月)
館内展示の他、50種類のブックリストを作成し各店舗に配布した。
- ・「新潟アルビレックスBB」長岡をホームタウンとするプロバスケットボールチームと初コラボ。
選手のおすすめ本等を紹介(10・11月中央館、12月～5月各地域図書館巡回)

- (2) 館外での出張展示「まちぼん」を実施した。昨年から継続の2カ所(タニタカフェ、まちなかキャンパス)の他、まちなか絵本館とUCCカフェの2カ所を加え、合計4カ所で実施。

- ・他の機関と協力することで、双方の事業のPRを行うことができた。また、仕事の交流が生まれたことで、今後につながる関係を築くことができた。

<課題・今後の方針>

- ・今後もさまざまな関連分野での協力をを行い、利用者に情報提供できるよう工夫を続ける必要がある。
- ・市民のニーズや時勢を見極め、各種機関との連携など柔軟な発想をもって多様な事業を展開していく必要がある。

③ 地域館における特色資料や地域の特色を生かした事業の実施

<目的・概要>

- ・近隣団体、学校、地元商店街等との繋がりをさらに深め、連携した行事を積極的に実施する。
- ・地域図書館全館の自主事業として行ってきた「図書館を使った調べる学習コンクール 地域コンクール」（市内全小学校対象）については規模拡大を目指し、また運営方法の見直しを図る。

<取り組みごとの内容・評価・課題>

○特色資料、地域性を生かした事業の実施

まちぼん



タニタカフェ、まちなかキャンパス、まちなか絵本館（10月より）で展示を行った。1テーマにつき、15冊程度の図書とテーマパネルを設置した。

としょかん福袋



年末年始明けの目玉企画として実施。テーマに沿った本を3冊セットし、袋詰めしたものを貸出した。

<実績>

【まちぼん】まちなかで本に触れる機会を増やし、来街者の滞在時間の増大や中心市街地のさらなる賑わいの拡大を図ることを目的に、中心市街地整備室と共催でタニタカフェ・まちなかキャンパス・まちなか絵本館を会場に展示を行った。図書館外に設置するため、本は貸出せずに施設内のみでの利用に限定した。直接利用者に感想を伺う機会は無かったのだが、特定のテーマ（赤い表紙だけを集めた“赤い本”）を行った際に、続編を希望するお声をいただけた。

【としょかん福袋】昨年、北地域図書館で実施したところ大変好評だったため、今年度は全ての地域図書館での事業として開催した。“平成”や“快眠”“空を飛ぶ”など、テーマに沿った関連資料を3冊セットで袋詰めしたものを、互尊文庫、西・南・北地域図書館で各40セット、中之島・寺泊・栃尾地域図書館で各30セット用意した。市政だよりやラジオなどで紹介された効果か、事前の問い合わせも多く、初日にはイベント目当ての利用者で混み合う館もあった。利用者からは「お正月らしいイベントで面白い」「入っている本がわからない分楽しみがあって良い」などの感想をいただいた。子どもからお年寄りまで幅広く楽しんでいただけた事業となった。

<課題・今後の方針>

新たな指定管理期間が始まり、それぞれの館で地域施設と連携が深まり今後も続けていきたいと考えている事業の他、新しい事業についても試みたい。各地域ならではの特色ある企画を打ち出せるように今後も情報収集等努力していきたい。

○図書館を使った調べる学習コンクール地域コンクール

事前説明会



終了後には、昨年の入賞作品のレプリカを熱心に見たり、早速調べるテーマを決めて関連資料を借りていく子ども達がいいた。

受賞作品展示の様子



学校図書館協議会研修会の会場で、今年度の受賞作品を展示。児童の作品の出来栄えに皆さん感心されていた。

<実績>

今年度は市内 20 校の児童から 77 作品の応募があった（昨年度は 20 校 64 作品）。応募者 79 人のうち、19 人は昨年に続き応募した児童からで、調べ学習に対して継続して取り組む意欲的な参加者が増えている。コンクール開催後、保護者の方より「娘が昨年受賞したことを校長先生が子ども達に紹介され、今年は他のお子さんも作品づくりに挑戦したようだ」との話を伺った。地道な活動により市内の小学校にコンクールの存在が広まってきていると感じている。

今回、審査会終了後に学校図書館協議会研修会の会場で、受賞作品を展示させていただいた。各学校の図書室担当の先生や学校司書の方々が閲覧してくださり、先生方へのコンクール周知にも繋がる機会となった。

<課題・今後の方針>

サポート教室への参加人数や応募作品が増えてきたことにより、運営の仕方について見直す必要があると考えている。より多くの子ども達からコンクールにチャレンジし、作品を仕上げることを楽しんでもらえるよう心掛けていきたい。

5 勉強会や職場内研修をはじめ様々な研修機会を確保し、図書館職員の資質の向上を図る。

(1) 重点事業の事業別評価について

①外部研修

事業概要	・県立図書館主催の研修等に職員を参加させ、また研修で得たことを職員間で共有し図書館職員としてのスキルアップをめざす。	
評価	A	評価理由
		・県内外の研修に参加し、研修の概要を参加者が全体会議や係研修で報告し、情報の共有を図った。

②職場内研修

事業概要	・職員全体での研修会を行い、職員全体の資質の向上を図る。	
評価	A	評価理由
		・認知症サポーター養成講座や同和問題研修などを行った。また、県立図書館と勉強会を行った。

(2) 重点事業の総括評価について

総括評価	評価理由
A	・外部研修・職場内研修ともに予定通り実施し、成果を上げることができた。

(3) 個別事業の実施結果について

① 外部研修

<目的・概要>	
- 新潟県立図書館などが主催する研修に職員を参加させ、また、研修で取得したことを職員間で共有し図書館職員のスキルアップを目指す。 - 地域図書館では、県立図書館主催の外部研修に今年度も積極的に参加する。	
<参加研修>	
①新潟県公共図書館新任職員研修	5月22日、23日（中央館3名、地域館1名参加）
②新潟県公共図書館児童部門研究集会	6月 5日（中央館6名、地域館2名参加）
③著作権セミナー	7月27日（中央館5名、地域館3名参加）
④子ども読書レベルアップ研修	8月22日、29日、9月14日、10月4日 （中央館計18名、地域館計9名参加）
⑤新潟県子ども読書オープンカレッジ	9月 1日（中央館2名参加）
⑥新任図書館長研修	9月 4日～9月 7日（中央館1名参加）
⑦新潟県公共図書館中堅職員研修会	9月12日（中央館3名、地域館5名参加）
⑧歴史資料保存活用研修会	10月25日（中央館2名）
⑨図書館総合展	10月30日～11月 1日（中央館2名参加）
⑩総合部門研究集会及び協議会委員連絡協議会	11月28日（中央館3名、地域館1名参加）
⑪関東・甲信越静地区図書館地区別研修	11月28日～11月29日（中央館1名参加）
⑫新潟県内図書館実務担当者会議	12月12日（中央館2名、地域館1名参加）
⑬電子出版制作・流通協議会 オープンセミナー	
「電子図書館サービスの現状と電子図書館への期待」	12月21日（中央館1名参加）
⑭国際子ども図書館児童サービス研究交流会	3月11日（中央館1名参加）
「ヤングアダルト世代への図書館サービスの在り方を考える」	
⑮新潟県公共図書館職員専門研修会	3月15日（中央館5名、地域館1名）
<実績>	
（今年度実績）	中央館 55名 参加 地域館 23名
（昨年度実績）	中央館 38名 参加 地域館 21名 参加
- 中央図書館では、昨年度と同様に県内外での研修へ積極的に参加し、先進地の事例や最新の機器、サービスの動向情報を得ることができた。また、中央図書館を研修会場とすることで、例年より研修参加者を増やすことができた。係研修で情報共有し、今後の業務に活かしたい。 - 地域図書館では、県立図書館等が主催する研修に例年並みに参加することができた。	
<課題・今後の方針>	
○中央図書館	
外部研修の成果（情報）を職員間で共有し、業務改善に取り組み、長岡市の事業としてどう反映させるか検討していく必要がある。	

○地域図書館

- ・県立図書館主催の外部研修には今後も継続して参加していきたい。それぞれの館から受講するのが一番良いと思われるが、出勤人数の確保を優先するとなかなか平等に参加できないのが現状である。また、研修に参加できなかった館への情報共有も行っていく。

② 職場内研修

<目的・概要>

- ・全体研修を行ったり、外部研修に派遣された職員が講師となり研修報告会を行ったりすることで、職員の資質や専門性向上・情報共有を図る。
- ・地域図書館ではスタッフの能力育成のため年3回の全体研修を行っている。今年度は「長岡に関する内容」「危機管理」「高齢者、認知症対応」についての研修を実施。

<研修内容>

○中央館

- ① 館内防犯研修 7月31日 講師：石井係長
- ② 同和問題研修 10月31日 講師：田中文書資料室長
- ③ 消防避難訓練・AED講習会 12月3日 講師：長岡消防署
- ④ 県立図書館訪問相談 1月17日 図書館活動評価について
- ⑤【合同研修】認知症サポーター養成講座 1月31日 講師：佐藤庄吾氏（三島病院作業療法士）
- ⑥ 研修報告会 2月28日
- ⑦【合同研修】新潟県立図書館訪問研修 3月11日
レファレンス研修 講師：新潟県立図書館職員

○地域図書館

<TRC内部研修>※全地域館スタッフが参加

- ① 長岡全体研修 10月31日 長岡花火の歴史について 講師：長谷川 健一氏
普通救命講習 講師：与板消防署救命係
- ② 長岡・燕・三条合同研修 11月19日、30日
危機管理について 講師：TRC東日本エリアマネージャー 高橋 理恵、室井 美貴
広報について 講師：おおぶ文化交流の杜図書館 山本 崇氏
高齢者対応・高齢者疑似体験 講師：三条市社会福祉協議会
- ③【合同研修】認知症サポーター養成講座 1月31日
- ④【合同研修】新潟県立図書館訪問研修 3月11日
レファレンス研修 講師：新潟県立図書館職員

※個人情報保護研修 8～12月（各館ごとに実施）

<中央館、他市TRC研修への参加>

- ①【三条】TRC新人研修 6月19日（1名参加） 講師：TRCデータ部、顧問 寺尾 隆
- ②【三条】TRCコーチング研修 7月13日（3名参加） 講師：㈱BRAND-NEW
- ③【新潟】TRC県内責任者研修 9月11日（6名参加） 講師：TRC人事部

<実績>

(今年度実績)	中央館	7回実施	地域館	4回実施
(昨年度実績)	中央館	9回実施	地域館	3回実施

中央図書館ではTRCと合同全体研修を2回行うほか、県立図書館と「図書館活動評価」について勉強会を行った。また、外部研修に派遣された職員が、研修内容について報告を行い、職員全体の専門性を向上・情報を共有した。

地域図書館では「長岡開府400年」「長岡市立図書館100年」という節目に関連して、北地域図書館の特色資料でもある「長岡花火」に関する研修や、最近の度重なる災害を案じ「危機管理」に関する研修を実施した。今後に役立てたい。

<課題・今後の方針>

中央図書館では、外部講師による研修を希望する職員が多いことから、他部局の市職員を講師として有効活用するとともに、今後とも様々な手段で研修の機会を設ける必要がある。また、子ども読書活動推進計画に基づく事業をより充実させるため、関連する研修を行っていききたい。

地域図書館では、昨年度同様に研修形態の見直しが必要。毎月月末休館日を使用し研修を行っているが、特別開館日を避けて研修日程を組むため、地域館スタッフが全員参加できる日が限定される。月末に行う作業もあるため、複数回に分けて行うなど調整することも考えたい。

6 子どもや若者が本に親しむ環境づくりに取り組む。

(1) 重点事業の事業別評価について

①子ども読書活動推進計画関連事業の実施

事業概要	・平成29年度に策定した「第2次長岡市子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもの読書環境を整え、読書機会の増進を図るための事業として実施する。	
評価	A	評価理由
		読書週間イベントや学校でのブックトーク等をはじめ、子ども読書活動推進につながる数々の行事を実施することができた。

②中高生向け図書館イベントの実施

事業概要	・図書館利用の少ない若者の図書館及び図書の利用増大を図る。 ・図書館の利用方法に関する問題を入れることにより、図書館の利用方法について学んでもらう。	
評価	A	評価理由
		・地域館でも開催したことで昨年度より参加者が増加した。 ・アンケートより、参加者の満足度が高かったことがうかがえた。

③米百俵号による特別巡回の実施

事業概要	・地域で開催されているイベントで米百俵号による資料の貸出を実施する。広く市民の目に触れることで、図書館及び米百俵号の利用の拡大を図る。	
評価	A	評価理由
		・さまざまなイベントで米百俵号をPRすることにより、利用したことのない児童に広く体験してもらうことができた。

(2) 重点事業の総括評価について

総括評価	評価理由
A	・様々な行事を通じ、子どもの読書活動の推進につながる活動ができた。

(3) 個別事業の実施結果について

① 子ども読書活動推進計画関連事業の実施

<目的・概要>

・平成29年度に策定した「第2次長岡市子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもの読書環境を整え、読書機会の増進を図るための事業として実施する。多くの事業を展開する中で、今年度は次の事業を取り上げ評価する。

1. 読書週間に合わせたイベントを実施し、読書習慣の普及を図る。
2. 希望のあった小学校及び中学校へ出向いてブックトークを実施する。

1. 読書週間イベント



20冊貸出キャンペーンのポスター

2. ブックトーク



クイズや読み聞かせを交えながら本を紹介

<実績>

【読書週間イベント】

・秋の読書週間にあわせ、10月27日（土）から11月29日（木）まで貸出冊数を20冊に増加するキャンペーンを行い、読書普及と図書館利用のPRを行った。図書館利用や家読を紹介するリーフレットを市内全児童、全園児に配布し、期間中に本を借りた子どもには、オリジナルのしおりをプレゼントした。

・リーフレットでは、家族で本に親しむ家読を紹介した。家族みんなで読書をしてコミュニケーションを深めることにより、子どもの読書環境を向上させるきっかけづくりを進めることができた。

【ブックトーク】

・希望のあった小学校及び中学校に訪問し、テーマを決めて本を紹介する「ブックトーク」を行う。ストーリーを紹介したり一部朗読したりしながら、子どもたちに「読みたい」という気持ちを持たせる。

・大勢の児童・生徒に本との出会いの機会を設けることができた。児童・生徒からも紹介した本やテーマへの興味がわいたといった声を数多く聞くことができ、読書活動推進の一助となった。

・昨年度から引き続き、中学校でのブックトークを1校実施することができた。

・さまざまな研修会に参加し、職員のスキルアップにつなげることができた。

(今年度実績) 平成 31 年 3 月末時点

公演回数 34 回 (小学校 31 回、中学校 3 回)

参加者数 1,379 人 (小学校 1,281 人、中学校 98 人)

(昨年度実績) 平成 30 年 3 月末時点

公演回数 34 回 (小学校 31 回、中学校 3 回)

参加者数 1,454 人 (小学校 1,351 人、中学校 101 人)

<課題・今後の方針>

- ・第 2 次長岡市子ども読書活動推進計画のもと、各世代の読書活動の推進のために、取り組み続ける。

【読書週間イベント】

- ・さまざまなキャンペーンを行うことで、読書習慣のきっかけづくりを進めていく。

【ブックトーク】

- ・中学校に対する P R の拡大。それに伴い、依頼の増加に対応する受け入れ体制の整備を行う必要がある。

② 中高生向け図書館イベントの実施

<目的・概要>

- ・若年層に人気の謎解きゲーム「図書館からの挑戦状」を開催することで利用の少ない若者の図書館及び図書の利用増大を図る。
- ・地域館でも実施することにより地域館の利用増大を図る。



「図書館からの挑戦状」ポスター



「図書館からの挑戦状」問題（全5問）

<実績>

- ・参加者からは、「難しかったけど楽しかった」「また参加したい」という感想を多くいただいた。
- ・図書館の各コーナーを回ってもらうような問題を作成することで、図書館を良く知ってもらうよう工夫できた。
- ・今年度より、地域館でも開催したことにより参加者数が増加した。

（今年度実績）

参加者数 28組：42人（昨年度22組：37人）

中央図書館…14組22人 互尊文庫…1組2人 西地域図書館…4組6人

南地域図書館…2組2人 北地域図書館…1組1人 中之島地域図書館…2組2人

枅尾地域図書館…4組7人 寺泊地域図書館…0組0人

内正解者数 16人 全体の約38%（昨年度7組 全体の約30%）

<課題・今後の方針>

- ・今年度は高校生の参加が無かったため、今後高校生へのPRに注力したい。
- ・アンケートにて、イベントを知ったきっかけが館内のポスターという回答が過半数だった。それ以外の広報については効果が薄かったとも考えられるので、今後は図書館以外での広報について再検討していきたい。
- ・未就学児、小学生向けの謎解きイベントを求める声もあったため、低年齢層向けのイベントも検討したい。

③ 米百俵号による特別巡回の実施

<目的・概要>

- ・地域で開催されているイベントに参加し、自動車文庫「米百俵号」による資料の貸出・返却、貸出カードの作成等を行う。
- ・広く市民の目に触れることで、図書館及び米百俵号の利用の拡大を図る。



イベントに合わせて、米百俵や長岡の歴史に関する資料コーナーを設置。(米百俵まつり)



車内の様子。多数の来場者の利用があった。(とちびまつり)

<実績>

- ・米百俵号を初めて見たという方や、以前利用したことがあり久しぶりに乗車したといった声が聞かれ、広く図書館や米百俵号のPRする機会となった。

(今年度実績)

4回実施 利用者数 962 人 貸出冊数 601 冊

①としょかんまつり	6月9日(土)	利用者数 91 人	貸出冊数 200 冊
	6月10日(日)	利用者数 71 人	貸出冊数 184 冊
②とちびまつり	9月29日(土)	利用者数 26 人	貸出冊数 20 冊
③米百俵まつり	10月6日(土)	利用者数 459 人	貸出冊数 96 冊
④雪しかまつり	2月16日(土)	利用者数 315 人	貸出冊数 101 冊

(昨年度実績)

5回実施 利用者数 824 人 貸出冊数 330 冊

<課題・今後の方針>

- ・より多くの市民が集まるイベントに参加し効果的なPRができるよう、支所及び主催者と綿密に打ち合わせをする必要がある。
- ・利用者数、貸出冊数を増やす工夫が必要である。
- ・郷土資料など参加するイベントに応じた資料の選書をする必要がある。